



種まきというのは、土に種をまいて育てる。冬まきは、冬の寒い時期に種をまき、春先に芽を出す。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

半井が、初直まき栽培の米に実用化に向けて進んでいる。春の稲作は春にまき、秋に収穫する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

でも、開場が目撃できるほど播種も難しく、春にまかれている。春耕という農業があるように、一年のうち農作業が多忙な時期がある。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

下野教授は2008年、北海道で行われていた春まき小麦の初まき栽培にヒントを得て研究を始めた。春の稲作は春にまき、秋に収穫する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

技術者も種み出した。出芽率は25%に押された。さらに上を目指して18年、種子消毒に広く用いられるウラム水和剤を播種した種もみ投入する。出芽率は25%に押された。さらに上を目指して18年、種子消毒に広く用いられるウラム水和剤を播種した種もみ投入する。

春作業の常識を覆し 人手不足を打開

経営拡大にも光明



2020年 ひとめぼれ 出身した黒刺コーティング種もみ (点線の左側) =西沢佳さん(岩手大農学部) 提供



試験農場での初冬まき。播種機のタンクには、黒刺で赤くコーティングされた種もみが入っている=下野裕之教授提供

「春にまいて、秋に収穫する」という常識を覆し、冬にまいて、秋に収穫する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

種は土の水を多く吸収し、出芽や生育を促す。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

米農家は、冬に米を収穫し、春に米を播種する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

しかし、冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。冬まきの種は、春先の寒さで休眠し、秋頃に発芽する。

※日報総研 No19 (令和6年4月30日付/4-5面) ※この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。